

スポーツツーリズムによる地域活性化へのアプローチ

～スキーと駅伝競技が強い地域特性を活かして～

政策企画課 総合戦略室 ☎30-0201

政策研究所について

今日、多くの自治体が人口減少と少子高齢化の問題を抱える中で、いかに自主性と自立性を発揮し、地域課題の解決に創意工夫して取り組むことができるかがこれまでに以上に関わられています。

本市では平成26年4月に「政策研究所」を設置し、外部有識者の知見を取り入れながら、中長期的な視野でより掘り下げた調査分析を行い、必要な施策を立案する機能の強化を図っています。

平成28年度に行った3つのテーマのうち2つの調査研究の概要をお知らせします。

研究背景

人口減少や地域社会の空洞化が問題となっており、中、「スポーツ振興」の果たす役割は、健康の増進や体力の向上にとどまらず、地域経済の活力創造にも寄与するものとして期待が高まっています。

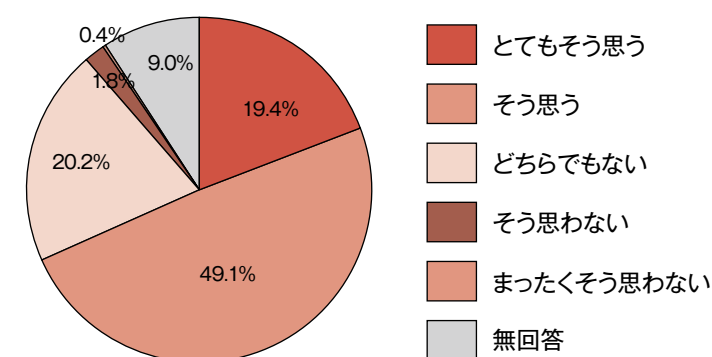
本研究では、本市の優位性を活かしたスポーツツーリズムを検討するため、スポーツを支える側の市民意識調査や、誘客のターゲットとなる都市部のスポーツ需要を調査するとともに、既存スポーツ大会の開催による経済波及効果を分析し、地域活性化に資する方策を検討しました。

1. 市民アンケートの結果

本市がスポーツツーリズムを推進することについて、支持すると答えた割合は68・5%となりました。

また、全国から参加者や関係者、応援者が訪れることについて、83・8%の人が鹿角にメリットがあると答えたことや、73・3%の人が訪れる選手等と交流することは、市外の文化や社会に触れる貴重な経験になると答えたことから、

市民アンケート「鹿角市がスポーツツーリズムを推進することを支持する」の結果



来訪者に対する歓迎の意識が高いことが分かります。

一方、来訪者に対し好感を持っていると答えた割合は54・8%と約半数にとどまっており、前述の歓迎意識と比較して20ポイント以上の開きがありました。

このことから、市民と訪れた選手等との交流機会を創出し、好感度の向上を図ることでスポーツを支える市民の増加につなげられる可能性があります。

2. 経済波及効果

平成28年度に実施した「浅利純子杯争奪鹿角駅伝」「十八駅伝」「全日本ローラーズスキー選手権大会」「ジュニアサマーノルディックスキー大会」(4大会)の開催が市内にもたらす経済効果を推計すると、4400万円となります。

4大会の開催に係る事業費は1366万円ですので、費用対効果は3・22倍と推計されます。

また、最も効果が及ぶのは宿泊業ですが、宿泊業はすそ野が広く、飲食業、食料品製造業、運輸業への効果もありますので、スポーツツーリズムは市内経済の活性化に大きく寄与するといえます。

大会費用に対する費用対効果 3.22 倍

経済波及効果 4,400 万円

直接効果
全産業で 2,400 万円の生産が誘発
+
間接効果
第1次間接効果
第2次間接効果

市内消費

大会開催事業費
1,366 万円

+ α

選手等の宿泊費、交通費、飲食費などの滞在費

各産業に波及

3. 都市部におけるスポーツ需要

民間の調査会社が行ったアンケート調査によると、旅行中にしたいスポーツ、あるいは旅をしてほしいスポーツの上位は「ウォーキング」「ハイキング」「サイクリング」「スキー・スノーボード」「登山・トレッキング」であり、場所を選定する上で重視することは「ロケーションの良さ」「スポーツに適した環境」となっています。

特に「ウォーキング」については、高齢者層に人気が高く、旅行先で気軽に家族で楽しむ傾向が見られます。

一方、スポーツを主目的として旅行をする場合は専門性が重視されており、「スキー・スノーボード」が上位で、個人や友人・知人で実施されている傾向があります。

このような傾向や、近年のジョギング・マラソン人口の高まりを踏まえると、観光資源が豊富な本市は、競技スポーツだけでなく、より幅広いスポーツで誘客につなげられる潜在力が高いと考えられます。

4. 地域活性化へのアプローチ

① スポーツ合宿の拡大

本市では、スポーツ技能の向上を目的とする合宿に対して補助制度を設けており、平成27年度は3326人泊の利用実績がありました。

今後、競技スポーツにとらわれず、スポーツを楽しむサークルや同好会等の合宿も対象とすることで、さらなるスポーツ交流人口の拡大につながると考えられます。

② 一般参加型スポーツの拡大

本市は競技スポーツを中心に交流人口の拡大を図ってきましたが、ウォーキングや登山・トレッキングも大きな可能性を秘めていると考えられます。

十八駅伝の舞台となっている十和田八幡平国立公園は、大自然の中でスポーツを楽しむことができ、絶好のフィールドです。一般の方も気軽に行えるスポーツを切り口として、温泉・食を楽しむ観光へと誘導することが重要なポイントとなります。

③ スポーツツーリズムの推進体制

スポーツツーリズムの推進のためには、スポーツ関係者だけでなく、企業・団体や地域住民など幅広い協力を得て地域全体で支えていく仕組みが必要であり、また、経営の視点を持った組織づくりが重要です。

市・スポーツ関係団体・観光関係団体・事業者等が一体となり、スポーツツーリズムに特化したネットワークを形成し、本市の強みを構築していくことで、新たな人の流れをつくり出していくことが期待できます。

